

平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

男子 3回戦

主審 大谷 英紀

副審 北島 寛臣

金沢 79

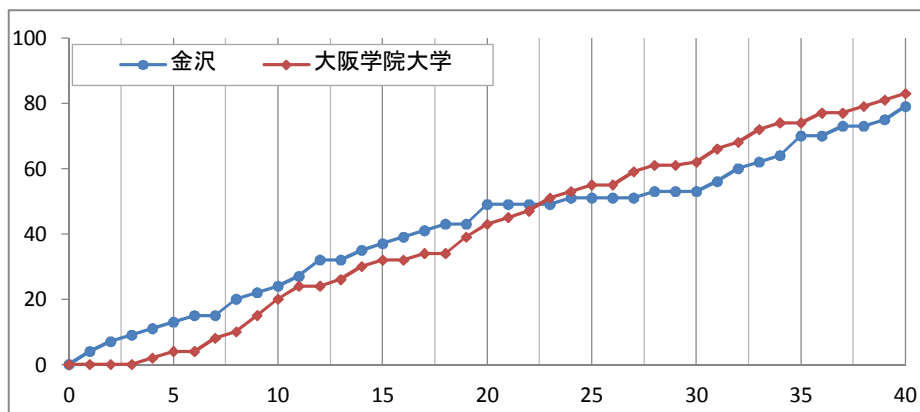
(石川) ●

24	—	20
25	—	23
4	—	19
26	—	21
—	—	—

83 大阪学院大学

○ (大阪)

No. 31a4 日時: 2013年7月31日(水) 15:00 会場: 別府アリーナ



金沢

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 長野 誠史 (C)	15	1	5	2	0
5	* 木田 貴明	30	1	12	3	4
6	* 吉川 和希	25	5	4	2	2
7	* 村上 直哉	4	0	1	2	0
8	高田 祐希	2	0	0	2	0
9	田中 大成	-	-	-	-	-
10	北 寿王	0	0	0	0	0
11	* 小林 翼	3	0	1	1	2
12	中村 優作	-	-	-	-	-
13	涌波 茄生	-	-	-	-	-
14	牧田 直也	-	-	-	-	-
15	島崎 凌	-	-	-	-	-
コーチ	大館 慶徳					
合計		79	7	23	12	8

大阪学院大学

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 原田 敬弘 (C)	6	0	3	0	2
5	* 福田 惟吹	23	0	11	1	2
6	* 市富 伸太郎	7	0	3	1	3
7	山野 昂輝	2	0	1	0	0
8	* 福田 夏輝	0	0	0	0	1
9	濱本 真吾	-	-	-	-	-
10	藤原 尚斗	0	0	0	0	0
11	吉岡 信友	9	1	3	0	2
12	* 網井 勇介	19	0	9	1	1
13	尾関 敦弥	7	0	3	1	2
14	齊藤 直也	-	-	-	-	-
15	木下 誠	10	2	2	0	1
コーチ	高橋 渉					
合計		83	3	35	4	14

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

両チーム、マンツーマンDefでスタートした序盤の4分間、シュートの決まらない大阪学院大学はOffのリズムが掴めず、一方金沢は#6の3Pや#5の3本の速攻などで得点を重ねた。13-0と点差が開いた残り6分4秒で大阪学院大学がたまたまタイムアウトをとる。再開後は大阪学院大学も攻撃のリズムを取り戻し、差を少し詰め一進一退の攻防が繰り広げられた。大阪学院大学#15の2本の3Pや#5のリング下での頑張りによって結局24-20と4点差まで大阪学院大学が詰めて第1ピリオドを終えた。第2ピリオドは、金沢#5の3Pや#4のドライブや大阪学院大学の#11の3Pや#4のドライブで、つかず離れずの展開となり4点差で終わると思った矢先、金沢#11のリバウンドからの距離のあるタップシュートがブザービーターで決まり、結局49-43と金沢が6点差をつけて前半を終えた。

第3ピリオドは金沢が4分間得点できず、その間大阪学院大学の#5のポストプレイが冴え、49-51と逆転を許した金沢がたまたまタイムアウトをとる。タイムアウト後に金沢は得点したが、大阪学院大学の2-3ゾーンからボールマンへのプレッシャーに得点を重ねることができなかった。大阪学院大学は#13と#5のリバウンドやリング下シュートによって得点し、62-53と逆転して終了した。第4ピリオド、金沢もDefを3-2ゾーンに切り替え流れをつかもうとする。大阪学院大学のインサイドのOffにファウルがかさむ金沢だが、速攻や#6の3本の3Pで点差を詰める息の詰まる展開が続いた。残り1分を切ったところで6点差、大阪学院大学はDefリバウンドを取ったが、ターンオーバーから残り37秒に4点差となった。大阪学院大学のタイムアウトの直後に、フリースローを金沢#4が2本決めて2点差となり、勝負の行方は分からなくなった。大阪学院大学は再度タイムアウト、再開後は冷静にストーリーングし、#4がジャンプシュートを決めると4点差で残りは0.6秒。最後まで息のつかない好ゲームであった。

記載者	内田 保博 (所属) 大分県バスケットボール協会
-----	--------------------------